

とんがらし通信



紅葉のもと
秋を感じる散歩道

No. 236

～主な内容～

- ・施設長コラム ・バザー
- ・Art way Duo コンサート
- ・活動報告（芋煮、芋掘り&焼き芋、温泉）
- ・研修 ・職員コラム ほか

仙台つどいの家編集室
発行責任者 山口 収
発行日 2018年11月25日
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752
E-mail sendai@tsudoinoie.or.jp
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



家族のカタチ の巻

今年も1年が終わろうとしていますねー！『子どものころは一日が短く、大人になると一年が短い』なんて言った人がいましたが、年々1年があっという間に過ぎていくようで焦りを感じます。

仙台つどいの家では毎年12月の第1週に、実践発表会『すてーじ』を開催しています。この『すてーじ』、一人の利用者さんに焦点をあてて、幼少期からの生活や家族との関わり・想いやつどいの家での活動・地域との関わり…などその方の生きざまを映像にまとめて上映するイベントです。昨年12月に開催した『すてーじ』では4人の利用者さんが主演の作品を紹介しました。その中の一人、佐藤咲子さんは今年、大きな変化の1年でした。

咲子さんは震災直後の平成23年4月に仙台つどいの家に通所を開始しました。養護学校高等部を卒業後2箇所の通所施設を経験し、仙台つどいの家に異動してきたのでした。以前に通っていた施設では、持ち前の器用さを生かし作業やものづくりなどの『お仕事』を熱心にやってきましたが、『もうお仕事は卒業します！』という本人の思いから、仙台つどいの家では大好きなパン作りやものづくりを、仕事ではなくゆったりとやりたいという希望をもっていました。

子どものころから活発な女の子で、町内のいろいろなお店に顔を出したり近所のお家におじゃましたり…。いわゆる多動で、行方が分からなくなって交番にお世話になることもたびたびだったようです。そのたびにお母さんは、お世話になったお店や近所の人に咲子さんを伴って、お詫びしながら咲子さんの特徴を伝え歩いたそうです。地域のみなさんに『咲ちゃん、咲ちゃん』と見守られ、『町内では知らない人はいないんじゃないかな』と言われるほど地域に溶け込んで生活していました。

そんな咲子さん、数年前から『自立したいんです～！』が口癖になりました。仙台つどいの家の利用者さんの中には、自宅を出てグループホームで生活する方が10名ほどいらっしゃいますが、仲間たちのそんな様子を見て憧れが強くなったようです。加えて、仙台つどいの家の活動や自身の休日で様々な経験をすることで、家での家族との生活に少し窮屈さを感じていたのかもしれないかもしれません。顔を合わせるたびに『山口さん、グループホーム探しはどうなりましたか？』と聞かれるようになり相談員に手配を頼んでいましたが、いざ見学をする段になってお父さんから待たがかりかかります。『身のまわりのことを自分でできるようにならないと入居できないよ』『周りの人と仲良くできないとグループホームには入れないよ』と諭して、見学を先延ばしにしています。今考えると、お父さんはかわいい娘が家を出ていくことに戸惑いがあったのかもしれないかもしれません。とにかくグループホーム入居はなかなか叶いませんでした。その間にも本人はレスパイトで宿泊の練習をしたり、ひとり暮らしに向けて揃える生活用品のリストを作ったりして盛り上がっています。。『佐藤咲子さんすてーじ～自立への道のり～』というタイトルで、咲子さんの思いに寄り添った昨年度の作品は、こうして最後に『…楽しいときも つらいときも… 周りのみんなと一緒に… 時には知らない人もまきこみながら… 咲子さんの「自立」への挑戦はつづいていく…』という字幕で終わります。

それから5ヶ月。かねてから病氣療養中だったお父さんが今年4月に逝去されました。ご実家にはお兄さんが戻ってこれ、咲子さんを取り巻く環境が一変します。その中でお母さんは大きな決断をしました。咲子さんの思いを汲んで、『自立』を後押ししようと考えたのです。そこからはトントン拍子。相談員は咲子さんにぴったりのアパートタイプのグループホームを紹介してくれました。咲子さん・お母さん・お兄さんで入念に下見をして入居を決めたのでした。

今、咲子さんは八木山にあるグループホームからバスを乗り継ぎ50分ほどかけて仙台つどいの家に通っています。初めての一人暮らしで戸惑うこともたくさんあります。時には寂しくて仕方ないこともあるでしょう。でも、『自分で考えて、自分で決めた』大きな経験です。みんなみんな、咲子さんにご家族の大きな決断を応援しています。咲子さんはときどき『電話を貸してください』と事務室の私の席に来ます。実家に電話して『モシモシお母さ～ん。今度の連休実家におじゃましていいですか？お昼ごはん、実家でごちそうになりますね～！』と大きな声で話しています。周りで見ている職員たちは、『咲子さんの家族のカタチだね』と微笑ましく見守っているのです。

(管理者 山口 収)

仙台つどいの家

バザー開催!!



10月13日(土)、毎年の秋の恒例イベント、仙台つどいの家バザーを保護者会と一緒に開催しました。当日は天候にも恵まれ、たくさんのお客様に来場いただきました。バザーに向けて仙台つどいの家では、利用者と保護者会、職員が協力しながら地域や企業への物品提供募集のチラシ配布、ポスター掲示の依頼、各学校へのボラ

ンティア募集などの準備を進めてきました。なかでも物品提供募集は仙台つどいの家一丸となって取り組み、地域の方々や企業様からのご協力のもと、開催当日までにたくさんの物品が集まること出来ました。ご協力ありがとうございました。

仙台つどいの家が幸町に移転してから、今回で6回目となり、幸町周辺の地域の方々にも「仙台つどいの家のバザー」が根付いてきており、「毎年楽しみにしています！」などお話しをいただきました。今年も開始時間の1時間前からお客様が並んでくださり、開始の合図とともに会場はあっという間にお客様でいっぱいになり大変賑わいました。館内の販売コーナーだけでなく、外の駐車場では今年も「さんまの炭火焼き」や「フランクフルト」、仙台つどいの家特製「豚すじカレー」の販売なども行い大盛況でした。また、今年は野菜の販売コーナーも盛況で、「梨、大根、人参、チンゲン菜、井土ねぎ」が早い時間帯で完売となりました。仙台つどいの家パン



工房「喫茶めいぷる」の焼きたてパンやクッキーも大好評でした。利用者も販売や出店という形でバザーに参加し、駄菓子屋は子供達にも楽しんでいただき、利用者と地域の方との交流の場ともなりました。

バザー当日にボランティアに来ていただいた方には、販売コーナーなどで活躍していただき大変助かりました。仙台つどいの家は、多くのボランティアの方で支えられながら活動しています。今後ともご協力をお願いいたします。

今年も地域の皆様の多大なるご支援・ご協力をいただき、仙台つどいの家バザーが大盛況のうちに無事終わることが出来ました。今回のバザーで集まりました収益は、保護者会より法人にご寄付いただき、障がいのある方のより良い地域生活実現のために役立てさせていただきます。仙台つどいの家バザーは来年も引き続き行う予定です。来年も皆様のご来場をお待ちしております。

(記：佐藤和)



新職員紹介

木村 しのぶさん



- ① 趣味はなんですか？
旅行！次は、四国に！
- ② 好きな食べ物はなんですか？
パンケーキ レンコン
- ③ 好きな歌はありますか？
ジャンル問わず、何でも聴きます。
- ④ 一言アピールをお願いします!!
初めてのことだらけですが、頑張ります。よろしくお願いします！

職員コラム

さんしょグループ『櫻井康雄さん』です！！

8月1日の10時45分、我が家に元気な男の子が生まれました。名前は「野生（のぶ）」といいます。生後100日が経過し、体重も生まれた時の倍以上の7.3キロになりました。

家族が増えとても賑やかで慌ただしい日々を過ごしています。赤ちゃん中心の生活は大変ですが、それ以上に楽しいことや新しい発見がたくさんあります。

首が座ってきて、支えながらソファに座ったり、呼び掛けに反応して笑ったりするようになりました。喃語もたくさん喋ります。驚いたのは、サザエさんに登場するイクラちゃんのような高い声で「はーい」と返事をした事です！

最近家族で外出する機会が増え、感じたことがあります。子供用品店でオムツ交換できる場所を探したところ、女子トイレにしかオムツ台がなくがっかり。「イクメン」という言葉が浸透してきているのに、まだまだパパだけでは不便なことが多いと感じました。ところが先週ショッピングセンターに出かけた際、ベビー休憩室（オムツ交換台、授乳室、調乳用温水器、電子レンジ、赤ちゃん用体重計等がある部屋）やキッズトイレもあり、乳児向けの設備が充実していて感動しました。小さな子供連れの家族に嬉しいこういったお店がもっと普及すればいいのにと思いました。

これからも日々の成長を見守りながら、家族の思い出をたくさん作っていきたいです。

「地域の中でありのままに生きる」ことが自閉症や知的障害を持つ人にとってどれほど難しいかは、普段そういう方々の支援をしてきて身に詰まされるほど実感します。先日も利用者が普段買い物に行っているコンビニエンスストアから事実上の入店拒否を受けました。その利用者が商品を触って潰してしまうということがその理由でした。非常に悲しい出来事ですが、そのときに支援者が取る対応は大きくふたつに分かれると思います。ひとつは支援者が買ってくるなどしてその方をコンビニに近づけないような対応。もうひとつは、支援者が間に立ってもう一度買い物を再開できるような環境作りを行うことです。例えば店側に利用者の特性を粘り強く説明したり、商品を潰さないように買い物の練習をするなどの取り組みが考えられます。

明石さんが45年間弛まらずに実践してきたのはそのような取り組みでした。知的障害と自閉症を持つ息子徹之さんが地域の中であたりまえに、しかもありのままに生きるためには様々な環境作りが必要でした。「明石通信」や「てっちゃんだより」を配って徹之さんの特性を地域の人々に知ってもらうことで、地域の中に徹之さんの「生きる場」を作ったり、「高校に行きたい」や「清掃局で働きたい」という本人の思いを実現するために社会的障壁を取り除いていく明石さんの取り組みはそのような環境作りの一部でしょう。

「明石さんの取り組みは素晴らしいが、そのような支援を他の親や支援者に求めるのは難しいのではないか」。講演後、このような声も聞かれました。確かにそれぞれの家庭にはさまざまな事情があり、置かれている状況もそれぞれ違います。全ての家庭に明石さんのような取り組みを求めるのは酷なのかもしれません。しかし明石さんの取り組みは決して唯一のものではありません。知的障害や自閉症を持つ人が「地域の中でありのままに生きる」ための支援の仕方は、それぞれの家庭や支援者の数だけ多様にあるはずです。人がそれぞれ光り輝く多様性を持っているように。(記：高根)

青森ねぶた



東北フォーラム2018 in あおもり

～ この仕事の夢・誇りを東北から発信 ～

例年ですともう雪が降っている時期ですが、今年は青森も暖冬のように。

11月8・9日と青森県青森市で「東北フォーラム in あおもり」が開催されました。東北地区知的障害者福祉協会主催ですが、施設長や管理者が準備するのではなく、各県の支援スタッフ部会に所属している現場の職員達が、5月ぐらいから準備をしてきた研修です。福島からスタートして、宮城、山形、青森と今年で4年目になります。

今回は「支援の取り組みの体験」として、座学だけではなく実際に体験してみるという分科会が選べるという形式でした。私は「機能的なコミュニケーションについて」「自閉症を持つ方たちの感覚を知る体験」の2つに参加しました。

2日目は、各県の支援スタッフ部会の発表でした。宮城県発表では司会を務め、今年取り組んでいる「ワールド・カフェ」を会場にいる250名の参加者と共有するという、体験を含めた発表を行いました。25分という短い時間でしたが、参加者の感想としては「話が弾んで有意義な話し合いが出来た」と効果を実感してくれたコメントを頂きました。他県の発表も特色があり、準備や計画を入念に行ったことが伺えました。

二日間の研修を通して、障がい分野で働いている職員の皆さんが元気をもらうことが出来たフォーラムでした。(記：佐々木)

青森で有名



マル海ラーメン

ARTWAY Duo コンサート

つどいの家にも音楽の秋がやってきました！ということで、ピアノとバイオリンの夫婦デュオ ARTWAY Duo さんがコンサートを開いてくださいました。スロバキア大統領夫妻来日の際は、御前演奏をするなど、とてもすごい方々なんです！つどいの家でもほぼ毎年、演奏をしてくださっておりもうおなじみ。演奏が始まると、少しでも近くで聴きたいのか立ち上がって演奏者のそばへ。『愛の挨拶』、



『リベルタンゴ』等と優雅に時は流れ、『さんぽ』では手拍子や足を楽器代わりにして踏み鳴らしたり会場の雰囲気も最高潮に！アンコールまでテンションそのままに、大盛況でコンサートは終わりました。

終わった後はCDのサイン会と、タタル・ヘンリさんが幼少期に親しんだ曲を口ずさみながら笑顔で廊下を歩きました。来年も、コンサートを開いてくださるのを楽しみにしています！

(記：高橋杏)

THE 芋煮会 !!

10月になり、秋の近づきを感じ始めました。そこで秋と言えば芋煮と今年ももみじ・さんしょ・けやき・くるみグループ合同で芋煮会をしました!! 残念ながら今年も昨年同様雲の多い日でしたが、利用者と職員合

わせ総勢27名で水の森公園へ。もちろん火起こしから利用者と一緒に。煙が目にも染みるなあと片目を手で押さえつつ薪を投入、火元から外して食材を次々入れてもら

い、ぐつぐつ美味しくなあれと完成を待ちます。今年はパウチご飯を湯煎して、おにぎりも職員と利用者と協力して握ります。広い公園内を散歩しながら完成を待つ方、まだまだかと様子を伺う方…それぞれが自由に時間を過ごし芋



煮が出来上がりました。今年は芋煮とカレーうどん風芋煮の2種を作り、食べたい方を選んでもらいました。何杯もおかわりする方もいて、食後はゴロンと横になる方、他の場所でやっていた方達の陽気な音楽に誘われ一緒に聴きに行く方、片付けをせっせと頑張る方…グループの垣根を越えた楽しい外出活動になりました。来年はどんな芋煮会が待っているか、これから楽しみに待ちたいと思います。(記：鈴木)

けやきの秋～さつまいも編～

皆さんはどんな秋が好きですか・・・？スポーツの秋？読書の秋？食欲の秋？けやきグループの利用者さんは食べるのが大好きです。

秋らしいものをみんなで食べたいということで、畑でさつまいもを収穫して焼き芋にして食べることにしました。気持ちの良い秋晴れが広がる中、みちのく杜の湖畔公園の自然共生園農園でさつまいもを収穫してきました。



奈美さんは畑の土に大興奮！身体を揺らして笑いながら掘っていました。陽介さん、智子さんもツタを引っ張って芋を掘ってくれました。

後日、仙台つどいの家の駐車所で掘ってきた芋を焼いて食べました。煙はもくもくと上がって目に沁みましたが、煙の匂いにつられて他のグループの皆さんも焼き芋を食べに来ました。焼きたてアツアツの焼き芋は、甘くてホクホクで美味しかったです。司さんはさつまいもを大きな口でパクリ。望さんは一緒に焼いていたマシュマロに夢中!! 来年も焼き芋したいですね☆

(記：松原)



～奈津子さん外食レポート～(不定期掲載♪)

宮城県初!! 豊風呂～秋保 蘭亭～

10月19日に、さんしょの早川奈津子さん、後藤彩也佳さんで秋保温泉の「蘭亭」に行って来ました。2017年に宮城県で初めての「豊風呂」にリニューアルしたと知り、早速GO!! 柔らかな畳が大浴場の床一面に敷き詰められているので、お風呂マットを敷かなくてもそのまま座って体や髪を洗うことができました。奈津子さんは、温泉に入ると、とっても気持ち良さそうにリラックスして、お湯をバシャバシャとさせて楽しんでいました。彩也佳さんも、温泉のバブルに「おお～♪」と不思議そうな顔をし、温かくて気持ち良さそうに入っていました。



入浴後はお楽しみの昼食!! 個室のお座敷で、松花堂弁当と釜飯を頂きました。車椅子でお座敷に上がらせてもらうことができ、良かったです。奈津子さんは、お刺身や海老しんじょ、栗が入った釜飯などが気に入ったようで、「おいしい」と手を上げて食べていました。

食事の後は、隣の個室で横になってゆっくりくつろぎタイム☆電源をお借りして、吸入をすることもできました。やはり印象的だったのは、「豊風呂」!! 床が滑りにくいので、お子様やお年寄りにも安心して利用でき、おススメです!! 温泉でリラックスし、美味しいお食事を食べて、大満足の2人でした。また温泉外出行きましょうね～♪(記：佐藤唯)





スケジュール schedule

- 12月 6日(木) 音楽療法① 3・4級研修
 7日(金) 実践発表会『すてーじ』
 11日(火) イエローシート
 18日(火) 職員会議 防災訓練
 19日(水) 職員会研修報告会
 20日(木) 音楽療法② 施設懇談会
 26日(水) ケース会議 13:30 降所
 29日(土)～1月3日(木) 冬季休館



- 1月 10日(木) 音楽療法①
 14日(月) 休日開館日(くるみ)
 18日(金) 成人を祝う会(美空さん)
 職員会議
 21日(月) 施設懇談会
 23日(水) 後援会役員会
 24日(木) 音楽療法②
 28日(月) ケース会議 13:30 降所



缶回収

10月の納品額

合計 4,860円でした。

ご協力有難うございました。



編集後記

日が落ちるのも早くなり、段々と寒くなってきましたね。秋から冬に変わる時期はなんだか寂しいような切ないような不思議な気持ちになります。そんな気持ちで誰もいない公園や朝の早い人通りの少ない道を歩く時間が好きで学生の頃はよく休日に散歩していました。就職してからはそんな時間が少なくなり、淡々と日々が流れていってしまっているように感じます。皆さんは休日をどのように過ごされていますか??もし寒いけど外に出たい気分の日があったら是非12月7日に仙台メディアテークで行われる『すてーじ上映会』にお越しください!お待ちしております☺

(記:今川)

ご協力ありがとうございます

ボランティアとして協力して頂いた皆様

(9月14日～11月13日まで)

吉田さん、工藤さん、シルビアさん、京子さん、高橋さん、米川さん、黒羽さん、菊地さん、すばるさん 他

見学・来訪者など

生け花(濱谷さん)、音楽療法(向井田さん・菊池さん)、アロマゆるっと、ぼけっとの会、佐藤さん(実習)、渡邊さん(就職希望)、高松さん(インターンシップ)、白石陽光園(見学)、近江さん(実習)、訪問の家(川端さん)、柊江小学校生徒さん(町探検)、仙台市宮城野障害者センター、夢の森(狐塚さん)、皆川さん(研修)、くりこま夢工房(岩木さん)、幸泉学園(大志田さん)、こぶし(土屋さん)、栗原秀峰会(東さん)、我妻さん(見学)、高橋さん(ボランティア希望)、ヤマハミュージック仙台(遠藤さん)、アートウェイデュオ、SMG(仙台ママゴスペル)、理想科学工業(崎日さん)、paypay、消防設備協会、日立キャピタルオートリース、日本テクノ(安田さん)、ダスキン、ホシザキ東北、今庄青果、マルキ水産、マルイ、ジェーシーアイ(瀬戸さん)、サト一商会、鈴木米穀、ダスキン、仙台大気堂(太田さん・小野さん・田村さん)、ヤクルト、仙台清掃公社、サラヤ、マルゼン、セトサプライ、シャープドキュメントヨシダ、まんさく工房、庄謙商店

法人職員:小林、半澤、福地、高杉、山口、佐吉、飯田、上野、岡崎 他

(以上、ご芳名順不同)

仙台つどいの家「すてーじ」

第1部 映像発表 / 第2部 ディスカッション

わたしたちは、一度
頭の中を真っ白にしてかんがえてみたのです

「本人中心の支援とは？」

そして 出発点を定めたのです
施設でもなく 親でもない
「あなたが本当にやりたいことはなんですか？」

本人の思いの実現・・・そこから見えてきたのは 人とひととのつながり・・・
施設が地域とつながることではなく、一人ひとりが個人名で出会い
つながっていく

つながりのなかにはコミュニケーション、そして本人の思い、
「みんな自分の思いや夢がある」
「みんな一人ひとりが違う存在」
「やりたいことは自分で決める」

わたしたちは、そんな思いの実現に向けて寄り添っていきます

そんな一つひとつの「思い」や涙と笑いの様子を映像でお贈りします

それが、それぞれの「すてーじ」

日時 平成30年12月7日 金曜日

13時00分～16時30分

会場 せんだいメディアテーク スタジオシアター

(仙台市青葉区春日町2-1 / 022-713-3171)

※昨年度と会場が異なりますのでご注意ください。

入場料 申込不要・入場無料

お問い合わせ 仙台つどいの家(山口・佐々木・鈴木)

TEL : 022-293-3751

E-Mail : sendai@tsudoinoie.or.jp

<http://www.tsudoinoie.org/sendai/>



13:00～ 開会

13:10～ 第1部 実践発表

【ゲスト発表】

「DCF とは一重度重複障害がある方が自分の力を発揮できる場所を目指してー」

社会福祉法人 武蔵野 デイセンターふれあい 柳亮一郎さん

デイセンターふれあいは東京都武蔵野市にある生活介護事業所です。30人近い利用者のほとんどは身体障害と知的障害を併せ持つ大変障害の重い方々です。私たちはこれまでも日常のさまざまな活動の中で、どのようにしたらそれぞれの方が持っている力や機能を活かせるのかを模索してきました。

今回はこのような発表の機会をお与えいただき感謝申し上げます。拙い内容ですが、当事業所での創作活動におけるとりくみの経緯をお伝えし、生き生きと地域生活を送ることができるような活動のあり方や、周囲の人たちとの連携やつながり作りの一端もご紹介できればと思います。

【すてーじ上映】

① 庄司篤史さん すてーじ 「チャレンジ!!」～未来への可能性～

自分の思いを表情や仕草で教えてくれる篤史さん。学生時代は体調不良で休むことが多かったそうです。つどいの家に通所するようになりいろいろな体験をしていく中で、今まで苦手だったことでも出来ることが増えてきました。篤史さん、次はどんなことにチャレンジしてみようか？

(作成者：仙台つどいの家 さんしょグループ 志藤悟)

② 大山ゆかりさん すてーじ 「ステップアップ～一歩ずつゆっくりと～」

工房やショップでいろいろなお仕事を日々頑張っているゆかりさん。中でもジャム作りは「自分の仕事」と思って取り組んでいます。昔は今と比べてできることが少なかったというゆかりさんがどのような経験を経て現在に至るのか、ステップアップの道のりを追いました。

(作成者：仙台つどいの家 めいぷるグループ 佐藤絵理)

③ 高橋智子さん すてーじ 「みんなで繋ぐ支援の輪」～未来に描く幸せとは～

父は、単身赴任。兄弟は県外での生活。長年母と二人暮らしを送ってきた中で、母の突然の死。今までの生活とはガラリと一変する。いろいろな人の思いが一つになり、少しずつ生活の基盤を立て直していく…。家族の状況は変わっても、智子さんを中心に、前に進もうとしている家族のカタチを追いました。

(作成者：仙台つどいの家 けやきグループ 庄子瑞穂)

15:40～ 第2部 ディスカッション

本人・作成者より、実践発表作成にあたっての思いを伝えていただき、『思いを大切にした支援』についてディスカッションします。

16:20 閉会

会場：せんだいメディアテーク

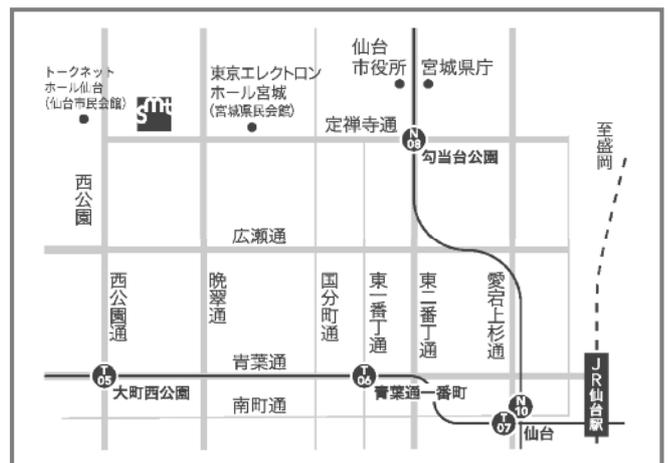
スタジオシアター

※有料駐車場有

(近隣へも多数有料駐車場有)

仙台駅より徒歩、約20分

※地下鉄駅、バス停も近隣にあり。



仙台つどいの家へのご寄付のお願い



いつも仙台つどいの家を応援いただき、ありがとうございます。

仙台つどいの家は『どんなに重いしょうがいのある人も、地域社会で差別されることなく、いきいきと自立した生活ができるよう、自己実現の場を保障し支援する』という法人の理念を実践するために、日々地域のみなさんとのつながりを基本に活動を行なっています。しょうがいのある方が自分らしく生活することがあたりまえにできる街を、一方通行ではなく地域の方とともに作っていくことが大切だと考えているからです。

しかしながら、重いしょうがいのある方がその人らしく生活していくことを保障するためには、多くの人出と資金がかかるのが現実です。より良い事業を継続して運営するために、ぜひとも仙台つどいの家にご寄付のご協力をお願い申し上げます。

* 仙台つどいの家への寄付は、確定申告によって所得税法上の寄付金控除が受けられます。控除を受けるためには領収書の発行が必要ですので、入金前に必ず添付の寄付申込書を郵送またはFAX・Eメールにて送信ください。

【ご寄付振込先口座】

七十七銀行 沖野支店 普通5382858

社会福祉法人つどいの家 仙台つどいの家 理事長 下郡山和子

ご連絡・お問合せは・・・仙台つどいの家（山口・早坂）
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16
TEL022-293-3751 FAX022-293-3752
e-mail o-yamaguchi@tsudoinoie.or.jp

寄 附 申 込 書

平成 年 月 日

社会福祉法人 つどいの家
理事長 下郡山 和子 様

住 所

氏 名

印

私はこのたび貴殿に対し、下記のとおり寄附を申し込みます。

寄附年月日	平成 年 月 日
寄 附 金 額	
寄 附 使 途 (該当項目へ <input checked="" type="checkbox"/> チェック をお願いします。)	<input type="checkbox"/> 法人の運営費に使用して下さい。 <input type="checkbox"/> 事業所の設置整備費や利用者の活動費の一部に使用の指定をする 場合には、事業名を記載願います。 (指定事業所：) <input type="checkbox"/> その他使途を指定する場合は記載願います ()
広報誌・ホームページへの 氏名、金額の掲載について	・ 広報誌 氏名： <input type="checkbox"/> 実名 / <input type="checkbox"/> 匿名 寄附金額： <input type="checkbox"/> 公開 / <input type="checkbox"/> 非公開 ・ ホームページ 氏名： <input type="checkbox"/> 実名 / <input type="checkbox"/> 匿名 寄附金額： <input type="checkbox"/> 公開 / <input type="checkbox"/> 非公開 ご寄附いただいた方への感謝の気持ちとして、氏名及び寄付金額を広報誌及びホーム ページに掲載させていただいております。なお、氏名及び寄付金額欄にチェックが ない場合は「匿名」「非公開」扱い（不掲載）とさせていただきます。

----- <事務処理欄> -----

管理者				担 当	受理日	平成 年 月 日
					決裁日	平成 年 月 日